２８．３．１１
杉並区広報課

大震災に立ち向かう

東日本大震災から5年を迎えた、本日3月11日、セシオン杉並（梅里1－22－32）では、式典「3.11を忘れない」を開催しました。式典では、宮城県名取市の閖上保育所の元所長で、防災教育の市民団体ゆりあげかもめの佐竹悦子会長が登壇。東日本大震災から得た教訓をもとに大切な生命を守るため、どのように大震災に立ち向かうべきかを参加者に話しました。

佐竹さんの講演は、「大切な命を守るために」と題して行われました。佐竹さんが、大震災の当時に所長を務めていた閖上保育所は、海岸から800m、海抜0mに位置していました。悪夢の日、平成23年3月11日午後2時46分、震度6弱の地震が発生し、保育所周辺は液状化と地盤陥没が起きました。保育所には、午睡中の子ども54名に職員10名がいました。余震が続く中、午後2時55分、２ｋｍ先の小学校への避難を決断します。それは、地震発生から10分足らずの決断です。職員が車を用意し、準備ができた車から出発しました。集合場所は、閖上小学校の玄関です。午後3時20分、小学校への避難を完了。その30分後には、避難場所の小学校にも津波が到達しました。

被災後の閖上保育所

この行動は、事前に作っていた避難マニュアルに沿ったもので、保育所の立地条件から、津波の襲来を予想して、実際に何度も訓練を行い問題点の検証を行ってきたからこそできたものです。防災計画やマニュアルは、作ったところがゴールではなく、繰り返し訓練と検証が必要だと佐竹さんは話しました。

真野承万葉太鼓

迅速な避難誘導により子ども54名と職員10名の命は、宮城県名取市内で亡くなった方が、900名を超えるような中で、誰一人被害を出すことなく避難を行ったことから、「閖上保育所の奇跡」と呼ばれています。

また、福島県南相馬市で、津波被害で学校を失った旧真野小学校に伝わる「真野承万葉太鼓」の演奏が披露されました。セシオン杉並には、地域住民など430名ほどが参加し、佐竹さんの講演や南相馬市の子どもたちの元気な姿に大きな拍手を送っていました。

【問い合わせ先】　危機管理対策課　　03－3312－2111　内線 1581